

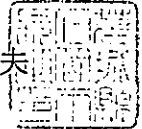


石都建第 2661号

平成20年10月27日

国土交通省道路局長 殿

石岡市長 横田 凱夫



今後の道路行政についての意見・提案について（回答）

平成20年9月19日付け国道企第37号で依頼のあった件については、別紙の通り回答致します。

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案

茨城県石岡市

1. 道路整備財源の確保

長期未整備となっている都市計画道路が幾つもあり、地域の根幹となる道路であるため整備推進したいと考えているが、整備財源の確保に目途が立たない状況にある。国庫補助を頂いて事業を実施しようと考えているが、地元負担分の財源の確保が容易ではない。残り分について地方債を起こすにしても財政難のおり実質公債費比率や将来負担比率が上昇してしまい地方自治体の財政を圧迫してしまう。

2. 道路維持管理主体の一元化と効率化

国道、県管理国道、県道、市道と道路整備及び管理の主体が分かれているが、地域住民に取っては全て道路という認識でしかない。住民は、整備中に何らかの問題が発生すれば直ぐに市役所に苦情を申し立てるようになる。しかし、整備の内容等に関して把握をしていないことが大半である。また、全ての道路の維持管理上の問題に付いても市役所に改善や整備の要望が出されてくる。住民にとっては、どこが管理主体であっても関係のないことである。そのため、特に道路の維持管理については、市が一元的に行うなどの方策を考えてもらいたい。

3. 高齢化社会に対応した”まちなか”道路の整備

幹線道路が整備されつつあり通過交通がまちなかを通過せずに目的地で到着できるようになってきているが、交通量の減った市街地に大型車両が入り込んでいる。まちなか道路に関しては従来の道路整備の考え方を柔軟に変更に自動車は不便でも高齢者に優しい、買い物客に優しい道路のあり方、交通規制のあり方を共に考えてもらいたい。

4. 人優先の歩行空間整備

国道など幹線道路には横断歩道橋が設置されている。交通安全上必要とされ設置されているが、歩行者が上り下りしなくてはならない。本来、人が平面を歩き、車が上や下を通るのが正しいのではないか。費用は掛かるが幹線道路は地下又は橋梁を中心に整備する必要があるのではないか。それが出来ないならエレベータの設置を義務づけてはどうか。

○現状

1. 市内の主な道路網は、国道6号、国道355号、主要地方道石岡筑西線、主要地方道笠間つくば線、広域農道フルーツラインなどによって構成されている。
2. 主要幹線道路が旧市街地から放射状に延びているため国道6号を横断又は合流しているため交通渋滞が起きている。
3. 国道6号では慢性的な渋滞が発生しており、その渋滞を避けるために通過交通が地域の生活道路に流入しているため、国道6号バイパスや国道355号バイパスの早期完成が望まれている。
4. 都市計画道路は27路線が計画され、一部未着手があるものの、順次、整備が進められている。あわせて、都市計画道路の見直しも行っている状況にある。
5. 市町村合併により市域が4倍になるなど広域的・一体的な行政を行う必要があり地域間の幹線道路網の整備が急がれている。
6. 中心市街地内の道路や中心市街地へのアクセス道路の整備が遅れている。
7. 既成市街地内の多くの道路が狭隘であり、防災上の危険度も高くなっている。
8. 高速道路へのアクセスポイントが市内にないため工業団地から等からインターチェンジの新設を望む声が大きい。
9. 本市の南側及び東側は筑波山系の山々に囲まれており峠を越えて行くため、つくば市や土浦市、筑西市までの時間的距離が遠くなっているそのため（仮称）上曽トンネルや（仮称）朝日トンネルの整備が望まれている。
10. 茨城空港の開港への対応として地域幹線道路整備が急がれている。
11. 石岡市から鉾田市間を鹿島鉄道が営業していたが、昨年廃止となり、公共交通の確保のため廃線敷きを利用したバス専用道（BRT）事業が計画されている。

○課題

1. 慢性的な交通渋滞を解消するため、国道6号千代田石岡バイパスや国道355号バイパスの早期完成が求められている。
2. 県道の整備や（仮称）上曽トンネルや（仮称）朝日トンネルの整備などが求められている。
3. 交通の流動化を図るために、生活道路や産業道路、観光目的や通過目的などの交通目的に応じた総合的なネットワーク形成を必要としている。
4. 既成市街地内をはじめとする狭隘道路については、国道・県道との連携を取りながら、計画的な拡幅・改良が必要である。
5. 道路財源は限られており、道路整備の緊急性や整備効果を勘案した優先順位付けによる計画的な整備が必要である。
6. 高齢者などの交通弱者をはじめ、すべての利用者を考慮した質の高い歩行空間の形成を図っていく必要がある。
7. 地域公共交通の確保のため鉄道廃線敷きを利用したバス専用道（BRT）を整備し、定時性・速達性の確保を図る必要がある。
8. 狭隘道路に囲まれた地域内に幹線道路を構築したり、道路の拡幅整備を行うことにより、防災性の向上を図り、安全で安心の地域づくりを進めていく必要がある。
9. 合併後の新市の一体感の早期醸成への道路面からの支援と効果的な道路ネットワークの構築による交通優位性の確保の必要がある。

②-2 地域の目指すべき将来像

茨城県石岡市

○目指すべき将来像

1. 幹線道路や地域の実情を勘案した生活道路の整備・維持補修により、日常生活の利便性や安全性が確保されたまちを形成するとともに地域間・地域内の幹線道路の効果的なネットワークの構築により、産業・経済・交通の要衝として優位性が確保されたまちを目指します。

2. また、基幹公共交通の充実や新交通システムの確立により、移動制約者の利便性確保や交通不便地域の解消に向け、容易に移動し、安全で安心して暮らせるまちを目指します。

具体的な項目は以下のとおり

①国道6号千代田石岡バイパスや国道355号玉里石岡バイパスなどの広域幹線道路整備により茨城空港へのアクセス向上など広域的な交流が進み、産業の発展や観光の振興など波及効果が生み出されとともに交通の要衝としての優位性が確保される

②主要市道における交通量の増大への対応と利便性・安全性の一層の向上を念頭に市道整備を行うことにより、市内の交通ネットワーク性の向上が図られる

③常磐自動車道へのスマートインターチェンジの設置や（仮称）上曽トンネル・（仮称）朝日トンネルの整備により広域からのアクセス性が向上し、観光振興、地場産業の育成等、地域振興が図られる

④市民の日常生活に身近な生活道路については、幹線道路や生活拠点等との連携に配慮し、地域の事情にあわせた「人を主役」とした道路の整備・改良を行うことにより、狭隘道路の解消や歩道などが確保された安全で快適な生活空間の確保される

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項（代表事例，期待する効果や評価等）

様式 ③

茨城県石岡市

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・地域活力の向上	・常磐自動車道へのスマートＩＣ整備	・首都圏などとの輸送時間短縮による農業・工業における地域競争力の向上	
・都市交通の利便性の向上	・鹿島鉄道跡へのバス専用道整備	・高齢化に伴う移動制約者の増加に対応する交通利便性の向上	
・地球温暖化の防止	・国道6号千代田石岡バイパスの整備促進 ・鹿島鉄道跡へのバス専用道整備	・渋滞の解消による温室効果ガス排出量の減少 ・自家用車から公共交通への転換による温室効果ガス排出量の減少	
・少子高齢化に対応した子育て環境 ・バリアフリー社会の形成	・石岡駅及び周辺道路のバリアフリー化	高齢者などの交通弱者をはじめ、すべての利用者を考慮した質の高い歩行空間が確保できる	